

全ての商品やサービスに カーボン・オフセットを

カルビー株式会社 カルネコ事業部
事業執行担当 加藤 孝一氏



「日本の森と水と空気を守ります」
をコンセプトにクレジットの流通
にとどまらず日本の環境を良くす
る熱い想いを形に。

環境貢献型プラットフォーム構築に
向け、ここからはじめよう！
ともに未来に向けて。

EVIは2011年3月に活動を
開始して以来、多くの方々との出逢
いを頂きました。本日はお忙しい中
多くの皆様にお越し頂き、ご賛同を
頂いた熱い想いをしっかりと受けと
めさせて頂きたいと思えます。

森林の役割

北海道では冷たい水に生息してい
た魚が獲れず、大間が北限だと言わ
れていたまぐろが北海道で獲れ、越
谷では竜巻が、伊豆大島では台風26
号の被害等、また10月11日都心では
明治8年以降、かつてない遅い真夏
日で30度を超えました。この異常な
現象を防ぐため非常に大きな役割を
担うのは、国土の7割を占める森林
のCO₂吸収の機能です。全世界の
陸地の3割が森林です。私達は陸地
の約7割が森林と言う非常に恵まれ

た国に住んでいる事を大切にしまし
なければならぬと思えます。

国産木材の需給率は、昭和30年に
は94%で、現在では3割を切り、平
成23年には26・6%でした。日本の
木は今、最高の収穫期を迎えている
のに売れないため切り出せず、収入
面でも苦しい状況です。

その中で様々な工夫をして乗り切
って来られたアサヒビールさんや大
建工業さんのお話、東京農大の今野
さんには森の現状を語って頂きまし
た。森の現状を何とかしたいと環境
省がJVERクレジット制度を立
ち上げ、経産省と一緒にJクレジット
トと言う形でこの度統合されました。
2008年にカーボン・オフセット
の普及の為、森林吸収の間伐や植林
をして、吸収量が増えた分を売れる
ようにしたのがクレジット制度です。
コンサルティングにより売れる様
になっても、昨年末には339・0
80トンの在庫が42・402トンし
か売れず、全体の12・5%しか販売
出来ていないのが現状です。

CO₂の削減に向けて

今日、産業部門でのCO₂の削減
は進んできましたが、家庭部門では

増え続けています。自らが節約し、
CO₂削減に貢献して頑張っている
人を応援したいと言う気風も強くな
ってきています。

そして消費者も企業もCO₂を削
減しようという想いと、頑張ってC
O₂を吸収している森の人達の困っ
ている事情を合わせたのがこのEVI
の基本機能で、これをプラットフォーム
として8つの事例を見て頂きまし
た。今の消費者・生活者は日本の
森林の環境保護が必要だと感じ、日
本の森林は環境の全ての源になると
言う想いが浸透していると思えます。
結び合ったEVIと森林事業者の数
は現在55か所にのぼり、森林クレジ
ットが預託されています。EVIの
サイトではそれぞれの森の人達の取
り組みの様子をご覧頂く事ができ、
カーボン・オフセット等に応援した
い所を選べる環境になっています。

プラットフォーム構築を目指して

全国展開の会社が全国の森を応援
したいと言う事が、このプラットホ
ーム上で出来る様になってきました。
環境貢献活動では環境保護に結びつ
く商品やサービスを持続的に購入使
用するのが一番強い参加意識でした



が、消費者・生活者の目の前に対象物が無いのも現実です。その対象として加藤産業の沖本様から「ともに生きる！ひろげよう防災の輪！復興支援キャンペーン」のお話があり、

これは昨年の3倍強の参加企業数になりました。消費者に想いが伝わり、自身の防災の備えと共に被災地の復興支援を実現しています。また、森永乳業でも日本の森を守ろうキャンペーンで、11月9日現在35万人を超える応募がありました。これまで私

たちが行った消費者調査では、環境貢献型商品やサービスを購入、使用したことがある人は58・2%、さらに、「今後購入、使用したい」と思

っている人を加えると8割を超えます。ウエイストボックスの鈴木社長からは捨てられていたリンゴをドライフルーツとして生まれ変わらせ、一袋売れると1円が長野県有林の支援にまわり、一袋作るのに排出される円換算2円のCO₂の内1円を消し込む非常に優れた商品のお話を伺いました。

菌床椎茸の製造工程で売り物と大きさ以外何も変わらないのにお金を支払って捨てられる運命にある（八峰美人の）椎茸を、おむすび権兵衛

さんから味噌汁に入れようと言うお話を頂きました。又南アルプス市の樋泉さんもサクランボやシンビジュウムの名産品にクレジットを付ける取組みを継続しておられます。

徳島鳴門のさつまいも、金太郎も一箱1円を森林支援として、徳島の森を守り還元されるアイテムとして登場します。消費者は環境貢献活動を行う企業に9割の方が好感を持ち、多くの店や商品を登場させて欲しいと望んでいます。

今日の話から一つでもここからスタートしようと言う会社が出てきて頂けることを心より祈念します。

知って、減らして、オフセット

次は環境に関する知識や情報です。「知って、減らして、オフセット」と言う事を本日、学びました。これを一歩前進させるとカーボン・オフセットまで行なえる、と言うのが南アルプス市、樋泉さんの市民参加型のわくわくエコチャレンジです。

次にエコツツエリアの井上さんの「大丸有」でのお買い物ですが、このエリアの中で一回のお買い物につき1円が森林にまわれれば、オリンピックを迎える東京の中心での話です

から、お買い物された全国各地の方々が地元のお店街に帰られた時に、環境貢献のひな型となります。

日本の森林を守る為に私達が出来る事は、森林を守る活動を支援するために「日本の木材で作った製品」を使う事です。そして未利用の木材

を製品開発し、志のある人達に使って頂こうと言うのが「森のめぐみのおとりよせ」という販売サイトです。

例えば東濱植林さんの百年杉のまな板は、購入の際に「日本の森を守る」ボタンで支援する金額をお選び頂くと購入金額＋クレジット額が引き落としとなり、商品代の一部が森に還り、更にお志を追加してお届けすると言う機能を実現させています。

トライ・ウッドさんと一緒に開発したオリジナル商品もご用意致しました。又、間伐材を使った便利な道具や動物達をモチーフにした商品も品揃えしています。時代の先を行く酒井産業さんともしっかりと結び合い、素晴らしい商品の品揃えもリストアップして、地域の経済活性化や森林

支援の両方にお役に立って参りたいと思います。

イノベーション・技術革新の切っ掛けではCO₂削減の地域住民の取組み

やPOPの調達を受注生産でお届けするカルネコのビジネスモデルも登場しています。POPの作り過ぎをなくし燃やされる物をなくす環境に貢献するモデルだと思っています。

守ろう、日本の森と水と空気を

以上私共EVI推進協議会はクレジットの出口をご用意し、木材の活用を通して日本の国土の7割を占める森林や日本の環境を持続的に良くし、捨てられてしまう農作物を有効に活用する。そんな仕組みを通して、皆様と協力して森林保護に資金が還流されるようにしたいのです。

例えばカルビーのポテトチップスは年間1億2億袋売れていて、それに1円が付いたらどうなるか、全ての商品やサービスにカーボン・オフセットをと言うのが本日のメッセージです。

私達と共に日本の森と水と空気を守る活動にご参画下さい。EVIへの参加に費用は必要ありません。地球温暖化は既に身近に多くの困り事を引き起こしています。今この時点から私達が出来る事に着手しなければなりません。さあ、ここからはじめましょう、ともに未来に向けて。